

平成 29 年度横浜市本牧市民公園内の体験学習施設（横浜市陶芸センター）指定管理業務評価（外部評価）

	唐澤委員	金委員	鈴木委員	豊福委員
Ⅰ 文化事業	<p>【評価できる点】</p> <p>耐震補強工事による利用者離れを回復すべく、さまざまな取り組みを行っており、前向きな姿勢が感じられる。その一つに SNS の導入があげられる。また、アンケート等により利用者の声を聞き、改善できる点や新たに導入できる点など、柔軟な対応を行っており、評価できる。</p> <p>限られたスペースと時間等の中で、利用者のレベルやニーズを考えた幅広い教室や講座の設定を行っていることは高く評価できる。</p> <p>市民と陶芸文化や教育活動との接点をさまざまに支援する事業を展開し、陶芸センターの存在価値を高めている。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>教室によって利用者のばらつきが見受けられる。地域における陶芸センターの立ち位置と利用者のニーズの関係を、いま一度しっかりと分析する必要がある。</p> <p>外国人の旅行等が多くなってきており、それに向けた外国人向けのサービスについての企画・検討をお願いしたい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>陶芸を通じて、市民の文化振興・芸術的創造性を活かした魅力あるまちづくりに寄与するという使命を達成するために、しっかりした方針のもと経営されている点が評価できます。</p> <p>目標を達成している講座が多数開講されており、利用者のニーズに応えられていることが分かります。</p> <p>小学校の総合学習に参加し、子ども達に陶芸への興味をもってもらえる機会があったことも素晴らしいです。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>陶芸センター独自のグッズの開発や販売は大変良い企画だと思いますので、実施に向けて今後、積極的に取り組んでもらいたいです。</p> <p>陶芸センターと市民を結びつける場作りとして、陶芸祭で陶芸に触れる企画や、バザーなど近隣地域との連携した取り組みを通じて、陶芸へのさらなる興味喚起の企画を望みます。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>陶芸のための種々の機材、窯、材料などを取り扱い、作陶の世界を維持する役割を果たしている企業が、一般人を対象に、作陶の機会、場所、講師を提供し、簡単なことから段階を追った作陶を行う場所づくりをよく行っています。</p> <p>一日体験から熟練した技術を要する作陶まで多岐にわたる内容の陶芸教室を実施しています。対象者も全く初心者の大人から子ども、そして長年作陶を楽しんできた対象者まで満足させる内容を工夫して、陶芸する機会の提供などよく行った。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>新しい需要層の創造が求められると思います。例えば、地域社会との交流により住民のための施設、学習、趣味の場になることも必要と思います。高齢社会の中でシニアとの連携などもあっていい。そのために作陶だけでなく、広く陶芸そのものの知識を紹介していく講座などもあるとよい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>利用率の高さ、体験型・基礎型・自立型等の開催している教室の数、広報・紹介等の活動、テーマ性を重視した講座の開催。公共機関への対応や陶芸指導者研修等への取り組み。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>利用者数の回復には時間を要しますが、回復を促進するには、特別講演や興味をそそるワークショップ等の多くの企画が必要。また、更なる向上には、市教育委員会との連携等が必要ではないか。</p>
Ⅱ 施設運営	<p>【評価できる点】</p> <p>貸室の稼働率がほぼ 100%と高く、利用者のニーズにしっかりと対応している様子がうかがえる。</p> <p>利用者の行動や導線を分析するとともに、意見に耳を傾けて施設的环境や使用の改善に積極的に取り組んでいる姿勢は高く評価できる。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>これまでと同様に利用者のニーズを分析し、使い勝手の良い施設運営を継続して欲しい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>年間 344 日の開館日数に対する貸室の稼働率 99%の高さは、大変評価できる点であり、今後も引き続き、利用者のニーズに応えていただきたいと思います。</p> <p>アンケートを活用した利用者サービス向上も取り組んでいる点が良いです。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>貸室利用がほぼ100%に象徴されるように利用者のしやすい環境づくりに努力されています。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>一般的に作陶の機会がない人を呼び込むことにもう少し努力されるとよいと思います。のぼり窯の様子を知ったり、日常的に作陶されている方々の作品などを利用して作陶の途中経過から完成までのプロセスなどがわかる展示物や陶芸の歴史など、いい展示を考えてみるのもいいでしょう。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>作陶作業の手順に対応できる動線の確保。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>耐震性を考慮しつつ、室内の上部空間の利用する什器の改良。</p>
Ⅲ 維持管理	<p>【評価できる点】</p> <p>施設の老朽化を把握しつつ、その中で保守点検等が適切に実施されており、熱意をもって施設を管理していこうとする姿勢が強く感じられる。</p> <p>細かなところにも気を配り、利用者を考えた修繕を積極的に行っている。</p> <p>危機管理対策においても日常的に取り組んでおり、利用者の安心・安全に配慮している。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>天災に限らず、築年数を考えると突発的な不具合等も予想される。そういった際の対応等、いまから考えておく必要があるのではないか。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>視察で訪問した際、施設の清掃等が大変行き届いており、日頃から維持管理に配慮していることが感じられました。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>経年劣化による小破修繕は築年数から考えて、今後も必要となりますので、具体的な資金計画を行っていくことが必要だと思われます。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>古い施設をよく管理し、ユーザーの立場に立って維持していると思います。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>一方、利用者も参加しての防災訓練、見学者の増加などを見越した視点での施設管理があるとよい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>古い建物を維持するための、日常的な保守点検。窯業機械・機材の定期的な点検。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>特になし。</p>
Ⅳ 収支	<p>【評価できる点】</p> <p>利用者の声を聞き柔軟に対応する姿勢が収入の確保につながっている。</p> <p>経費節減の取り組みとその成果を考えると、来年度以降も引き続きの取り組みを期待したい。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>特筆すべき事項は見受けられないが、月極駐車代金が高額との意見が寄せられており確認が必要。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>粘土や釉薬の導入など、指定管理料のみに依存しない収入の確保及び経費削減の取り組みが積極的に行われており、評価できます。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>教室運営をよくされていると思います。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>日常この施設の利用をしていない一般向けに、陶芸、作陶、などについての資料作成販売などに挑戦されてはどうかと思いました。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>日常の点検。材料の販売。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>特別な道具の開発と販売。中国からの道具・材料の輸入販売など商品の開拓。</p>

平成 29 年度横浜市本牧市民公園内の体験学習施設（横浜市陶芸センター）指定管理業務評価（外部評価）

	唐澤委員	金委員	鈴木委員	豊福委員
その他	予算が少ない中で知恵を出し合って広報活動を積極的に行い、稼働率の維持に努めている。	WEBサイトによる陶芸センターの情報提供や広報の充実を今後さらに期待します。		耐震改修したばかりではありますが、立地を活かした快適な空間を持つ建物への立て替えが、望ましい。
総括	横浜市陶芸センターの役割をよく理解し、市民への作陶機会を提供し、陶芸の普及に積極的に取り組む姿勢が強く感じられる。陶芸文化を通して、柔軟かつ真摯に魅力ある活動を展開しており、高く評価できる。 今後も、さまざまな取り組みを行い、信頼と安心感、さらに魅力のある施設として、満足度の高い活動を展開して欲しい。	陶芸に触れる機会や、陶芸の魅力を伝える機会が多数設けられ、また、市内の公益的作陶活動に対する支援も行われ、陶芸センターが果たしている役割は大きいと思われます。 今後も引き続き、横浜市唯一の公的陶芸活動拠点として、地域における更なる貢献を期待します。	おおむね、施設の特性をよりよくして、利用者のために維持運営をされていると思いました。 近隣にある三溪園との連携なども行ったりするようですが、地域社会との交流をもっと視野に入れてみてはどうでしょうか。 そのうえで、陶芸センターをもっと知ってもらい、あるいは親しんでもらう展開をされてみてはどうでしょう。	それぞれの項目を通じて、前向きな取り組みの姿勢を感じます。自主努力の限界を感じさせる部分も多く見られますが、利用者のニーズに答えて作陶への意欲を掻立てる施設運営に取り組んでください。

平成29年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援	◆体験型教室の開催 ・一日体験教室(手びねり・絵付け)	●一日体験教室の開催 □手びねり・絵付け体験開催数	10回/年	10回/年	B	【成果】 一日体験教室が目標を上回る実績となりました。これは電動ロクロ教室の好調によるものと考えられ、今後の講座企画の際の参考にできる事例と考えています。 また、季節のやきもの講座を年間3回開講しました。レース模様を押し付けたタタラ粘土板を組み合わせて成形するクリスマスブーツはフェイスブックでの反応も良く、初めて陶芸センターに来館される方がほとんどで人気の講座となりました。 夏休み親子陶芸教室や学童が多数を占める団体教室に於いて「焼物は土と石から作られる」を小学生向けの資料として発布し、横浜国立大学附属小学校3年生37人の総合学習「陶芸センターに行って質問してみよう」などでは校内で採取した土で焼き物がつくられるか、沢山の質問があり、子どもたちに興味を持ってもらうことができました。 自由作陶教室の在籍率は耐震工事開けより少しづつ回復し第4回には95%となりました。(第1回85%、第2回84%、第3回91%、第4回95%)一日体験、手びねり、電動ロクロの初級、中級講座を終了した方が継続の受講を希望し、自由作陶教室の在籍率の向上につながりました。  【課題】 1日体験講座・手びねり初級中級は利用者数が全体的に目標を下回り、上向きの回復とはなりませんでした。講座内容のマンネリ化の影響が出てきている可能性があります。次年度は目標設定ラインを多少下げ、陶芸への興味を喚起させる新しい1日体験講座と手びねり講座を企画しなければなりません。自由作陶教室と第2自由作陶教室の受講者は4月の耐震工事期間終了後の開館準備期間9日間のため利用者数の減少が見られましたが、1日あたりの利用者数は、ほぼ例年並みの利用者数となりました。	【評価できる点】 自立型教室である自由作陶教室の在籍率は95%(平成29年度第4回は)と非常に高い状況です。陶芸センターに定着している利用者が多くいることを証明する数値で、非常に評価できるものと考えています。初心者や中級者向けの体験型教室や基礎型教室の実績は目標には到達していませんが、自立型教室の人気の高さを考えると、これらの教室が固定客を生み出していると考えられ、陶芸センターがその役割を大きく果たしていると感じています。 また、高齢者の利用者が多く、広報媒体としてフェイスブックなどのインターネットを活用し、経費をかけずに効率的に広報活動を行い、幅広い年齢層に対して情報提供を行っています。  【改善が必要と考えられる点】 耐震補強工事による利用者離れを回復するには、広報活動を行ったリピーターを増やしたりするなど、時間をかけた継続的な取組が必要となります。さまざまな広報手段や手法を活用し、効果的な集客方法を見極め、効率的な広報費の執行を考える必要があります。 また、近隣区の老人クラブや子ども会などにも情報提供を行うなど、地域の中での存在感をより一層高める取組に期待します。既存の広報手法にとらわれず、トレンドを意識した広報活動にも期待しています。	
		□目標利用者数	220人	126人	C			
		・一日体験教室(電動ロクロ)	□電動ロクロ体験開催数	10回/年	10回/年			B
		□目標利用者数	130人	138人	B			
		・一日体験教室(季節のやきもの)	□季節の焼き物体験開催数	3回/年	3回/年			B
		□目標利用者数	60人	42人	C			
	・親子陶芸教室	●親子陶芸教室の開催 □開催数	17日/年	16日/年	B			
	□目標利用者数	680人	541人	C				
	・陶芸祭体験教室	●陶芸祭手びねり体験、ロクロ体験、楽焼の各教室 開催 □開催回数	4日間	4日間	B			
	□目標利用者数	140人	117人	C				
	◆基礎型教室の開催 ・手びねり初級・中級	●手びねり初級教室の開催 □開催数	2回/年、16日間	2回/年、16日間	B			
		□目標利用者数	330人	235人	C			
		●手びねり中級教室の開催 □開催数	2回/年、16日間	2回/年、16日間	B			
		□目標利用者数	380人	186人	C			
		・電動ロクロ初級・中級	●電動ロクロ初級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	2回/年、14日間			B
		□目標利用者数	230人	187人	C			
	●電動ロクロ中級教室の開催 □開催数	2回/年、14日間	2回/年、14日間	B				
	□目標利用者数	200人	167人	C				
	◆自立型教室の開催 ・自由作陶教室	●自由作陶教室の開催 □開催日数	341日	340日	B			
		□目標利用者数	7,000人	6874人	B			
		●第2自由作陶教室の開催 □開催日数	48日	48日	B			
	□目標利用者数	1,200人	852人	C				
	◆気軽に陶芸を体験してもらう取組 ・電動ロクロ1日体験(再掲)による市民の作陶体験	●気軽にできる陶芸体験 □電動ロクロ1日体験の開催(再掲)	10日間/年	10日間/年	B			
		・陶芸祭での事前予約なしの体験の場の提供	□予約無しでの陶芸体験	4日間	実施			B
・各種媒体を使った広報		□新聞・タウンニュース・市営バス内の無料パンフレット等への掲載や陶芸関連書籍、陶芸関連WEBへバナーをアップする。	実施	実施	B			
4 在留外国人向けの英語のチラシ・パンフレット作成		□一日体験・自由作陶教室・貸室等在留外国人向けに英語版のチラシ・パンフレットを作成	実施	実施	B			
	・障がい者の方、ハンディキャップのある方の参加しやすい環境改修の提案	□ハンディキャップのある方が作陶しやすいスペースを確保するために、作陶台周辺や釉掛けスペースのレイアウト改善に向けて検討する。	検討を実施	実施	B			
	・映像による紹介	□一日体験作陶ガイダンス等を映像で紹介説明	実施	実施	B			
◆次世代育成の取組 ・親子陶芸教室での小学校1年生程度を対象とした陶芸解説資料の作成	●作陶活動への興味を喚起 □小学校低学年を対象とした焼物に関する解説資料を親子陶芸などで発布	実施	210部発布	B				
	・映像による紹介	□手びねりや電動ロクロでの作陶方法を映像でわかりやすく紹介	実施	実施	B			

平成29年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

2 市民の主体的な作陶活動の支援	6	◆専門技能習得講座として、多くのテーマの講座を企画・実施 ・電動ロクロ水挽き徹底教室 ・絵付け教室 ・特定のやきもの教室 ・還元焼成講座 ・大物焼成講座 ・穴窯焼成講座 ・楽焼成講座 ・サヤ鉢焼成講座 ・招待作家講座	●専門技能習得講座の開催 □電動ロクロ水挽き徹底教室、年間2回、8日 □目標利用者数	2回(8日間)/年 100人	2回(8日間)/年 124人	B A	ロクロの水挽きだけを繰り返し4日間徹底的におこなう。		
		□絵付け教室 □目標利用者数	2回(6日間)/年 70人	2回(6日間)/年 63人	B B	和絵の具の使い方を学ぶ基礎講座。			
		□チャレンジ講座 □目標利用者数	6回(24日間)/年 480人	6回(24日間)/年 287人	B C	講師・アドバイザーの推奨するチャレンジ講座の開講 第1回、52人・第2回、43人・第3回、60人・第4回、22人・第5回、19人・第6回、91人 合計287人			
		□還元焼成講座の随時開催 □目標利用者数	実施 800人	毎日随時 707人	B C	赤土や、銅赤釉、染付けで(具須)の発色を楽しむ。			
		□大物焼成講座の開催 □目標利用者数	2名/月 24人	2名/月 24人	B B	350×400×450mm以内の大物作陶に挑む。			
		□穴窯焼成講座の開催 □目標利用者数	実施 60人	1回/2年 66人	B B	緑色の出やすい焼締土や桃山陶の志野焼に挑む(5日間)			
		●その他単発講座の企画・実施 □三溪園共催講座 □目標利用者数	1回/年 40人	1回/年 38人	B B	陶芸センターで制作した抹茶茶碗で三溪園でのお茶の御点前を楽しむ。			
		□一日上絵付け講座の開催 □目標利用者数	1回 16人	1回/年 11人	B C	3日間の九谷焼上絵付け講座を受講した人のみの講座			
		□穴窯焼成体験講座の開催 □目標利用者数	1回 10人	1回 12人	B A	穴窯講座を受講した利用者が薪投入と窯出しを体験をする。			
		●招待作家(外部)による特別上級講座1回(年間) □目標利用者数	1回/年 24人	回/年 18人	B B	会津本郷焼、宗像窯、油滴天目茶碗を挽く。			
		7	◆作陶活動の成果発表の場の提供 ・陶芸祭での作陶展、ホームページで実施するネット特別賞、「全国公募・アマチュア陶芸展」による全国規模の作品発表の場の提供	□陶芸祭時に作陶展を年1回開催 全国公募・横浜アマチュア陶芸展開催 ※「全国公募・アマチュア陶芸展」は隔年開催 □目標利用者数	1回/年60人	1回/年66人	B B	センター利用者66人が出品。陶芸展アンケートによる人気投票は常に人気上位が毎年同じ傾向にあるので、出品をためらう利用者もいるので廃止とした。	
			ホームページ上でのネット特別賞発表	未実施	未実施		アマチュア陶芸展は2018年11月に開催		
		8	◆(指定期間5年間に)新講座、実験的講座の開講	新講座として、季節の焼き物体験を開講 講師・アドバイザーの推奨するチャレンジ講座の開講	実施	実施	B B	季節の焼物、磁器土を使用する講座 ルーシーリーの技法講座、石膏型鑄込み、子どもの日電動ロクロ体験、	
			3 市内の公益的作陶活動に対する支援	10	◆公益的作陶活動の施設指導者対象の研修講座の開催 ●陶芸指導者研修講座 □開催数 □目標利用者数	1回/年 15人	1回/年 16人	B B	市内小中高等学校と少年院陶芸担当官など、幅広い応募があり、午前講義・午後実技を行いました。
		11		◆公共機関等で陶芸の知識を持たない機関に対する相談対応。	□陶芸についての相談、出張教室の要望等について積極的に対応	実施	実施	B	横浜国大付属小総合学習(3年生 37人)校庭で採取した土は焼いて陶器のようになるかをみんなで考える。
		12		◆(指定期間5年間に)出張教室・講座等の対応等、陶芸知識の発信による基地化	●公益的な作陶活動への情報発信 □学童保育へのDM発送 ●陶芸知識の基地化 □陶芸についての相談、出張教室の要望等について積極的に対応(再掲) ●団体教室の開催 □開催数 □目標利用者数	1回/年 10件/年 360人	1回/年 221通 7件/年 174人	B B C C	団体教室案内のチラシを発送 電話による相談の受付、陶芸工房の設置、電気窯プログラムコントローラーの不良原因、陶芸作品を焼成と指導してくれる市内の施設の紹介 多くの学童クラブと就労継続支援B型施設が参加。
				【成果】 今年度は電動ロクロ水挽き徹底講座とチャレンジ講座の石膏型による磁器土の泥漿鑄込み講座の受講者が増加しました。 鑄込み講座は今回が初めての試みとなった講座で、利用者からは次回も受講したいと要望数が多い講座でした。 招待作家講座は今回も人気があり、300年間継承されている会津本郷焼、宗像窯の7代目、宗像利浩氏を講師にお招きし、油滴天目茶碗の実技講座と宗像窯の歴史も聞くことが出来ました。 スタッフが推奨する磁器土を使用する醤油差し講座や前回受講できなかった利用者のためにルーシーリーのピンク象嵌技法講座を再度開講しました。 穴窯焼成講座では66人が受講、12人が雨の降る中での焼成体験でした。焼成体験の映像をDVDに収録し館内で上映することが出来ました。 子どもの日の新企画として『こどもの日無料電動ロクロをまわしてみよう』教室を1日限定で開催しました。 三溪園との共催企画『My茶碗でMyお茶会』は38人の応募がありました。次年度は、楽茶碗を自分で窯から引き出す楽焼の共催企画にすることにしました。 【課題】 チャレンジ講座は通常の講座よりも若干上級レベルの講座です。講座の内容によっては受講したくても期間内に作品を完成できない可能性があるため、次年度は講座日数を1日増やすなど、余裕のある講座日程を組むことも検討していきます。	【評価できる点】 目標達成度の高い講座が多く、陶芸センターの企画と利用者のニーズが一致していると評価できます。 特に、穴窯焼成講座は、遠隔地での開催にもかかわらず66名が受講するなど、陶芸センターで成熟した利用者に新たな刺激と陶芸の魅力に触れる機会を作った点で高く評価できます。 また、発表の場として陶芸展を開催することも、受講者の制作意欲を高めるきっかけになっていると考えられるため、継続して続けていただきたい活動です。 【改善が必要と考えられる点】 チャレンジ講座では異なる魅力をもつ講座を6回開催しています。講座により利用者にバラつきがありますが、講座の趣旨を考えると少数派のニーズに応えるところも施設の魅力として考えることができます。チャレンジ講座のような連続講座を企画する際には、定員(目標)を講座内容に応じて設定することも検討してください。				
				【成果】 横浜国立大学附属小学校3年生の総合学習に参加し、校内で採取された土が焼き物になるかを、質疑応答形式で学習意欲を高める教室を開催しました。また、陶芸知識相談として、市内建築事務所からの個人陶芸スタジオでの窯業機械の設置についての相談、市内個人陶芸教室から電気炉焼成装置のシステムエラー、窯業機械と釉薬のリサイクルについて、また、慶応義塾大学へのイギリス人留学生から貸窯と作品の焼成方法に関する相談をうけ、特殊焼成方法である『高温で作品を引き出す』焼成方法は、経験がないと危険であり、窯の設置状況他と耐火スーツが必要であることを伝えました。 【課題】 年々減少傾向にある団体教室の広報とターゲットの絞込みを再考する必要があります。	【評価できる点】 横浜市唯一の公的陶芸活動拠点として、教育活動に協力することは非常に重要だと考えます。特に、指導者のレベルの底上げを行うことは、地域における陶芸の普及と技術向上に大きく貢献していると考えられ、高く評価できます。また、一般の市民が陶芸についての疑問や相談について対応できる数少ない機関であり、その役割を果たしています。 【改善が必要と考えられる点】 特筆すべき事項なし。				

平成29年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

4 陶芸と市民及び来街者を結びつける場づくり	13	◆施設の象徴としての登り窯の活用	■見学用として活用するほか、公園内におけるパネル掲出場所として活用	実施	実施	B	登り窯の構造断面図の設置	【成果】 フェイスブックの開設と、ホームページのスマートフォン対応により、若い世代の受講希望者が増える傾向になってきました。また、登り窯構造断面図の掲示により、立ち止まって掲示版写真を撮る人が増えてきました。  【課題】 クチコミや公園内の掲示講座案内看板や横浜市内の施設に於ける陶芸センターの知名度と講座情報の拡散方法の改善を図る必要があります。  【評価できる点】 紙媒体やホームページ等を活用して幅広く広報活動を行い、若年層に向けても情報を発信するなど、新規利用者の獲得に向けた努力をされています。また、近隣施設と連携するなど地域に根差した運営をしている点も評価します。 一般見学者の受入をはじめ、来館者が陶芸への興味を持ち理解を深められるよう、登り窯の構造断面図を設置した点も効果的な取組と考えられます。 また、陶芸センターの利用者以外の方からの問合せにも対応されることは、公共的施設としての役割を果たしていると考えられます。  【改善が必要と考えられる点】 近隣区の老人クラブや子ども会などにも情報提供を行うなど、地域の中での存在感をより一層高める取組に期待します。また、広報よこはま等行政が発行する広報誌の活用も検討してください。	
		14	◆(指定期間5年間に)近隣地域と連携した取組を行うための企画検討。	■近隣地域との連携	実施	実施	B		ホームページでの映像紹介。(動画再生回数:講座案内1054回、陶磁器の出来るまで1234回)
			■陶芸祭での三溪園・本牧市民公園・地域町内会との連携	実施	実施	B	近隣町内会に陶芸祭チラシの発布と「元気な本牧根岸まちづくりの会」参加加入		
	■陶芸祭来場者への対応		実施	実施	B	本牧市民公園にミニ盆栽用を提供			
	15	◆陶芸祭で、初めて陶芸にふれる来場者のための企画実施。	■予約無しでの陶芸体験の実施	実施	実施	B	陶器市バザー、自分で選ぶ抹茶茶碗でお茶の御点前コーナー、アンケート回答により陶芸グッズが当たる抽選会		
			■お茶会・バザー・作品展示会での興味の喚起	実施	実施	B	当日参加出来るロクロ、手びねり、絵付け、楽焼教室を開催		
			■スマートフォンサイトからのアクセス環境の充のため、テンプレートの改変や新規動画の投入の企画検討	実施	実施	B	自分で選ぶ抹茶茶碗でお茶の御点前コーナー、陶芸センター自主グループによる特設バザーの開催		
	16	◆施設利用促進のための広報・宣伝活動、ホームページや紙媒体の制作の充実	■すべての講座募集チラシの作成、配布	実施	実施	B	ホームページをより検索しやすいように、スマートフォンサイトを更新。フェイスブックを開設		
			■陶芸祭チラシの作成、配布	年1回	年1回	4万部	B		全講座のチラシの制作
			■紙媒体への記事掲載の推進	実施	実施	B	新聞折込チラシ		
			■ホームページの講座案内年度切り替え	実施	実施	B	神奈川新聞夏休み親子陶芸教室の掲載、NTTタウンページ		
			□ホームページの最新情報の更新	1回以上/月	1回以上/月	B	全講座年度内切替の実施		
			■利用者へ質問対応や、陶芸ライブラリー、映像等による詳細な情報、電話やホームページ等を通じての相談等の情報発信。	■利用者に支障のない一般見学者の受入	実施	実施	B		都内建築事務所から陶芸工房設計に関する条例等の相談。市内陶芸教室より電気焼成装置エラー表示の相談。他。
	5 陶芸センターに関する情報提供及び広報・プロモーション	18	◆Webサイトによる施設案内	■WEBサイトの活用	実施	実施	B		ホームページ、スマートフォンサイト、フェイスブック
				■ホームページ以外のWEBサイトへの情報掲載	実施	実施	B		NTTタウン情報、じやらんnet、ナビタイム、
				■ホームページ上のギャラリーの充実	実施	実施	B		各年アマチュア陶芸展入選作品、
		19	◆陶芸関係のサイト等を活用した広報	■陶芸関係WEBサイトの活用	実施	実施	B		陶芸ネットコム・陶芸広場、シンリュウホームページ、陶芸ショップドットコム
□無料の全国規模の習い事サイトなどへの情報提供				実施	実施	B	日本の学校習い事スクールモバイル版・エキテン・Eショップローカル		
20		◆(指定期間5年間に)陶芸センターの知名度アップ	■陶芸祭「全国公募・横浜アマチュア陶芸陶芸フェスティバル」を通して近隣地区及び全国的に知名度を上げる	実施	実施	B	ホームページ、フェイスブック、陶芸ネットコム及びシンリュウ全国各支店、近隣地域へ8万枚のチラシの発布		
			■メディアの取材に対する積極的対応	実施	実施	B	メディア取材なし、		
21		◆外国の方向けの情報発信方法の検討	■英語版チラシ・パンフレットの設置	実施	実施	B	1日体験講座は3~4ヶ月ごとに更新、貸室・自由作陶教室は毎年1回更新		
			■英語で受講できる自由教室受講の案内	実施	実施	B	4人が自由作陶教室に在籍		

平成29年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
1 作陶活動のための施設の提供	◆適切な施設開館及び施設の貸出	□開館日数345日、休館日20日 (休館日:清掃・空調機点検2日、電気点検1日、年末年始6日、陶芸祭準備2日、耐震工事9日)	実施	344日/年間	アップ B	VOC検査で1日緊急休館	【成果】 利用者の要望により新たにN白信楽土をラインアップし、磁器土を使用する新たな講座を開講しました。貸室の全体の在籍率は79% (電動ロクロ87%、手びねり58%)となりました。自由作陶教室と合わせた受講、1名で2枠受講希望などの利用がありました。利用者の中にはセミプロになることを希望する方もおり、作陶支援や、自宅の陶芸工房設置のアドバイス、専門学校との紹介など利用者のステップアップの場となりました。  【課題】 新たな釉薬などが設置スペースの都合上増やせない為、企画検討が必要です。	【評価できる点】 開館日数が多い中でも、貸室の稼働率が99%と非常に高い状況にあり、可能な限り利用者のニーズに応えようとする姿勢が評価できます。  【改善が必要と考えられる点】 特筆すべき事項なし。
		□開館時間9時～17時	実施	実施	B	各点検休館日、VOC空気環境検査、		
	□開館時間・休館日の周知(館内掲示・ホームページ)	実施	実施	B				
	◆公園条例に基づいた利用料金の徴収	適切な利用料金の徴収 □陶芸成形室半日500円 □焼成料100gまでごとに 100円	実施	実施	実施	B		
2 利用者ニーズの把握及び利用者サービスの向上、アイデアノウハウの一層の活用	◆各種講座・新規利用者・貸室の利用率増加のための工夫	□貸室稼働率	99%	99%	B	開館日数344日、貸室利用日数340日 稼働率99%	【成果】 釉薬スペースのコンパクト化により通路幅員を拡張しました。また、ヤスリ掛けスペースを屋外へ移動し、粉塵の人体への健康被害を回避しました。  【課題】 粉塵等により館内空調機の冷却・暖房効果が減少しているため、改善する必要があります。	【評価できる点】 利用者の意見に耳を傾け、施設環境改善に取り組む姿勢は、施設運営の基礎的かつ重要なポイントです。また、陶芸愛好家の裾野を広げるためにも、一般見学者の受入は効果的と考えますので、引き続きの取組をお願いします。  【改善が必要と考えられる点】 引き続き、日々の整理整頓や動線の見直しを行い、使いやすい施設づくりを継続してください。
		□貸室目標利用者数	5,400人	5194人	B			
	□貸室目標利用料収入(焼成料含む)	4,200,000円	4220900円	B				
	◆アンケートを活用した利用者サービス向上と利用促進	■利用者アンケートを実施	全講座で実施	実施	B	全講座と貸室・自由作陶教室		
3 組織的な施設運営	◆利用者への配慮をしながら、可能な限り、施設見学を受け入れ。	■アンケートからの改善の実施	実施	実施	B	新粘土の導入・釉薬掛けスペースの改修・ヤスリ掛けスペースの設置	【成果】 講師・アドバイザーと事務部門のコミュニケーションにより、利用者満足度の高い、効果的な業務運営を行いました。  【課題】 今後更なる企画運営・広報の拡充のためには、陶芸知識を有する事務スタッフの増員の検討が必要です。	【評価できる点】 パート職員を増員するなど、適切な運営組織体制や人員を配置している点を確認しました。  【改善が必要と考えられる点】 特筆すべき事項なし。
		■利用者への支障のない「一般見学者の団体」の受入	実施	4件/26名	B			
	■穴窯講座への団体見学の受入	実施	12名	B	団体はなし、アマチュア写真家の見学、穴窯薪投入と窯出し体験12名			
	◆(指定管理期間において)施設スペースの有効利用方法等の検討	■講座教室内のレイアウト変更に伴う作陶スペース拡張 ■釉薬スペースの改善と移設の検討 ■不良在庫等の廃棄による保管スペースの確保	実施 実施 実施	実施 実施 実施	実施 実施 実施	B B B		
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組	◆適切な運営組織体制と人材の配置(毎日2名以上の勤務体制) (センター長1人、所長1人、副所長1人、事務員2人、講師9人、貸室アドバイザー6人、助手1人)	■センター長月3日、所長週4～5日、副所長5日、講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務、事務部門は毎日2人以上のローテーション勤務	実施	実施	B	講師とアドバイザー兼任2名、講師、事務職、アドバイザー副所長兼任1名、アドバイザー助手兼任2名。新規事務職員には適時陶芸知識の説明と技法、歴史のレクチャーを行う。講師には招待作家の技法等について作家本人よりレクチャーをしてもらう。	【成果】 個人情報保護に関する所内研修を行い、実務において活かされるよう業務点検を行いました。また、マイナンバーについては本社のみで取り扱うことにより、安全管理を徹底しています。  【課題】 今後も個人情報を適正に扱っていくため、引き続き研修を行うとともに、日常業務の再点検を行う必要があります。	【評価できる点】 個人情報保護について積極的に取り組んでいます。利用者の個人情報を扱うことが多い施設ですので、引き続き、適正な取り扱いに注意してください。  【改善が必要と考えられる点】 特筆すべき事項なし。
		■センター長月3日、所長週4～5日、副所長5日、講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務	実施	実施	B	個人情報のシリアル管理とパスワードでの情報管理		
		■職務分担表により効率的な業務遂行	実施	実施	B	個人情報保護の徹底管理		
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組	◆個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取扱いを適正に行い、事故の内容に努める	実施	実施	B	個人情報保護の徹底管理	【改善が必要と考えられる点】 特筆すべき事項なし。	
		■マイナンバー利用者の個人情報漏えい防止のため、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる	実施	実施	B	個人情報のシリアル管理とパスワードでの情報管理		
		■情報公開規程に則り、情報開示請求等の適切な対応	実施	0件	B	個人情報保護に関する講習年1回の実施		
		□人権に関する職員研修年1回	1回/年	1回/年	B	個人情報保護に関する講習年1回の実施		
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組	◆個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	■管理・運営上の近隣への迷惑行為への十分な留意、対策の実施	実施	実施	B	公園内の安全速度通行、公園内業務通行車両への通行証の発布と安全走行の指示	【改善が必要と考えられる点】 特筆すべき事項なし。	
		■横浜市中企業への優先発注	実施	実施	B	電気設備、清掃業務、機械警備、新聞広告		

平成29年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ維持管理目標	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 施設及び設備の維持保全及び管理、公園管理	◆施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	□清掃業者委託による清掃	毎日	実施	開館日すべての毎日清掃	【成果】 保全管理や点検を遺漏なく実施した結果、一年間無事故で施設設備の維持保全が出来ました。  【課題】 近隣において空き巣や盗難等の被害が報告されていることから、防犯対策及び利用者の安全確保のために、今年度事務所内に防犯カメラを設置しました。同様に教室内にも防犯カメラの設置を検討します。	【評価できる点】 日常の清掃や定期的な保守点検等が適切に実施されていることを確認しました。また、公園施設として、施設周りの清掃なども自主的に取り組んでいます。 休館日が少ない施設でありながら、日常管理を徹底し、熱意をもって施設管理を行っている点を高く評価します。  【改善が必要と考えられる点】 築49年と老朽化が進んでいることから、不具合や劣化について、市と情報共有するとともに、改善個所について積極的に提案してください。
		□定期清掃	2回/年	2回/年	年2回の全館定期清掃の実施		
		■管理標準チェックリストの記録	実施	実施	毎日の管理標準チェックリストの記録		
		■施設設備の日常点検	実施	実施	毎日の見回り点検の実施		
		■早めの自前小破修繕による高額修繕費支出回避	実施	実施	非常警報設備電源切替リレーの修繕		
		□空調機器定期保守点検	2回/年	2回/年	年2回の定期点検の実施		
	◆保守点検、備品管理、環境維持の実施	■給排水設備点検	随時実施	実施	随時、排水枙と側溝清掃実施、給水設備の毎日点検		
		■電気設備点検	随時実施	実施	既存劣化コンセント・スイッチの交換工事30ヶ所		
		□消防設備点検	2回/年	2回/年	年2回の非常警報設備と非常避難路、消火器の点検		
		□窯業機械の機能点検	毎月	実施	毎月の窯業機械機能点検の実施		
		□窯業機械の保守点検	1回/年	1回/年	年1回の陶芸窯の定期保守点検の実施		
		□下洗い箱を設け、粘土、釉薬が直接流れないように管理	毎日	実施	毎日の下洗い箱の設置		
◆公園の管理区域内の環境維持 ◆公園管理者との連絡調整	□排水溝、樹の掃除・汚泥量の記録	2回/年	1回/年	耐震工事休館のため汚泥の排出量が減り、年1回の排出作業となった			
	■建物の美観維持のため屋根の松葉清掃や登り窯周辺の草刈	実施	3回/年	年3回の屋根の松葉清掃と登り窯周辺の清掃			
	■工事修繕他による車両の出入りの連絡調整	実施	実施	毎月のゴミルート回収車、電気設備工事車、自動販売機の入替業務、陶芸材料搬入の公園内通行の連絡調整の実施			
2 小破修繕の着実な実行	◆小破修繕の取組	■見回り点検による適切な維持管理	実施	実施	毎日の見回りとスタッフ、利用者からの報告による維持管理	【成果】 経年劣化コンセント・スイッチ(30ヶ所)を交換したほか、非常警報装置停電時電源切替リレースイッチの修繕も行いました。  【課題】 既存蛍光管(直管)の経年劣化による交換回数が増加、蛍光灯安定器の製造も終了している為LEDへの交換経費が増加しています。	【評価できる点】 稼働率が高い施設ながら、積極的に小破修繕を行い、施設内の環境改善に尽力しています。  【改善が必要と考えられる点】 抜本的に取り組むべき修繕については、早めに市と情報共有するとともに、改善個所について積極的に提案してください。
		■修繕部品の直接購入による修繕コスト削減	実施	実施	修繕資材、機械部品、電気設備部品の直接購入による経費削減		
		■早めの小破修繕による高額修繕費の回避	実施	実施	経年劣化箇所の早めの把握と修理		
3 事故予防及び緊急時の対応	◆事故防止体制・防犯、緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施	■緊急連絡網の整備と迅速な市への報告	実施	実施		【成果】 訓練においてAEDの操作方法を学ぶなど、利用者の安心と安全のための取り組みを行いました。  【課題】 訓練の効果を職員に定着させるためには、今後も定期的に各種訓練を実施していく必要があります。	【評価できる点】 日頃の危機管理意識の高さが伺える取組がなされており、AED操作研修は陶芸センターのみならず、公園利用者の安全確保にも寄与していると考えられます。  【改善が必要と考えられる点】 沿岸部の施設であるため、津波発生時等に利用者が帰宅困難者となった場合の訓練も検討をお願いします。
		□AED操作研修	2回/年	2回/年	年2回の防災訓練時でのAED操作研修		
		■警備業務一覧を職員全体で認識共有	実施	実施	スタッフ全員による毎日の退館時点検とWチェック体制の実施		
		■日常の見回りによる危険箇所の発見	実施	実施	スタッフによる館内危険箇所の報告と改善の実施		
		■消毒石鹸、アルコールでの感染症対策と嘔吐物処理のマニュアル化と全職員で共有	実施	実施	体調不良者の報告と迅速な対応。		
		■蚊の発生源の除去と野鳥の死骸の報告	実施	実施	緑の協会と横浜市への野鳥の死骸の報告。		
		■警備保障会社による24時間警備(機械警備)	実施	実施	総合警備保障隊による24時間の機械警備		
4 防災に対する取組	◆日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、災害備蓄等の実施	■緊急連絡網の整備と迅速な市への報告	実施	実施	災害備蓄品の更新と追加	【成果】 災害時に利用者や職員が帰宅困難となった時にも対応できるよう、災害備蓄品の点検・更新を行いました。  【課題】	【評価できる点】 危機管理対策に日常的に取り組んでおり、防火管理等も徹底されています。  【改善が必要と考えられる点】 特筆すべき事項なし。
		□利用者も含めた防災避難訓練	2回/年	2回/年	年2回のスタッフと利用者参加型の防災訓練とAED取り扱い説明。		
		■焼成についてスタッフの安全教育、防火管理の徹底	実施	実施	陶芸窯の取扱、焼成管理、注意事項の共有と防火管理の徹底		
		■防災用品を準備、備蓄、更新をする	2回/年	2回/年	年2回の防災用品の更新と準備		
5 その他管理に関する事項	7	■使用済み粘土、釉薬を毎日適切に管理する	実施	実施	曜日担当スタッフ全員による毎日の管理	【成果】 適正な廃棄物処理に取組みました。  【課題】	【評価できる点】 適切に対応していることを確認しました。  【改善が必要と考えられる点】 特筆すべき事項なし。
		□産業廃棄物の管理状況をチェックし、横浜市ルート回収にて適正に廃棄する	チェック実施 1回/月	チェック実施 1回/月	毎月の産廃のチェックの実施とルート回収による廃棄		

平成29年度 横浜市陶芸センター 指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価			
IV 収支	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価		
1 適切な収支構造及び収支バランス	1	●収益の改善と固定経費の削減努力	実施	実施	B	損害保険会社の変更と計画仕入れ。	【成果】 日常的に施設の手入れを行うことにより、無駄な支出を抑えました。  【課題】	【評価できる点】 日々の業務点検から改善点を見つけ出し、収支の適正化に取り組んでいる姿勢が見られます。  【改善が必要と考えられる点】 特記すべき事項なし。	
		■陶芸材料の在庫管理を徹底し、計画仕入れを行う	実施	実施	B	毎日の見回り。			
		■修繕費用の突然支出に備え建物、設備の劣化箇所を常に点検し把握する	実施	実施	B	ルーシーリーの技法講座、季節のやきもの講座、磁器土を使用する講座。			
		■利用者数の増加が見込める新規講座を企画する	実施	実施	B				
2 指定管理料のみに依存しない収入構造の検討	2	◆指定管理料のみに依存しない収入確保の取組	■自主事業講座の受講率を高め、増収を図る	実施	実施	B	利用者アンケートと要望による講座の設定	【成果】 陶芸材料の販売等により、その他の収入において234,055円の黒字を計上しました。  【課題】 今後の収入源として、独自グッズの開発を検討していきます。	【評価できる点】 利用者の声に耳を傾けつつ、収入を確保するための工夫を重ねていることがわかります。  【改善が必要と考えられる点】 特記すべき事項なし。
		■上級講座による利用料増収	実施	実施	B	石膏型による磁器土泥漿鑄込み講座、招待作家講座、1日染付け講座			
		■独自グッズの開発、販売の可能性を図る	検討	検討	B	検討中			
		■陶芸材料の販売価格見直しの検討	実施	実施	B	紙やすりの有料化。			
3 経費削減及び効率的運営努力	3	◆経費削減等効果的運営の取組	●固定経費の削減努力等	実施	実施	B	利用者からの蛍光管・古新聞・紙袋・古布のセンターへの寄贈。	【成果】 今年度も利用者から古新聞や古布の希望を受け付け、利用者の協力を得ながら施設運営を進めてきました。灯油の直接買い入れによって年間68,000円の経費削減が出来ました。  【課題】 地代家賃(月極駐車代金)が高額であるため、改善の検討が必要です。	【評価できる点】 灯油の直接買い入れなど経費削減の取組に成果が表れています。来年度以降も引き続き取組を進めてください。  【改善が必要と考えられる点】 特記すべき事項なし。
		□消耗品、事務用品の節約による事務経費削減、利用者からの古新聞・古布の再利用。	実施	実施	B	陶芸材料等の重量物の輸送コスト削減			
		■材料の直接仕入れによる輸送コスト削減	実施	実施	B	灯油燻用の灯油の直接購入による年間68,000円の削減			
		■液化燃料(灯油)の直接購入による経費削減	実施	実施	B	非常警報設備の停電時電源切替リレーの修繕			
		■自前修繕による修繕経費の抑制	実施	実施	B				

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1						<p>平成29年度の陶芸センター事業運営は、平成28年度耐震工事後の開館準備期間を9日間設けたため、4月10日からのスタートとなりました。各種講座の年間のスケジュールは多少変則的な日程でしたが、各講座の講座日数を加減しながらのスケジュールの構成となりました。1日体験や通常の手びねり講座、団体教室などはプロモーションの方法の改善が必要でマンネリ化した講座内容の一部変更と合わせて初めての利用者により興味をもっていただける企画を考えたいと思います。また、今年度初めには、スマートフォンからのアクセスが容易になるようサイトを更新し、フェイスブックも新たに開設しました。アンケート等により利用者の要望を取り入れ、新規に使用できる粘土を追加し、新講座に於いては磁器土を素地として使用するチャレンジ講座も開講しました。毎年開講する招待作家講座では現代の民芸陶器窯元として300年の伝統が継承されている会津本郷焼(宗像窯)窯元 宗像利浩氏を講師に迎え、1日のみの講座でしたが盛況のうちに終わることが出来ました。毎年開講される講座に新たな企画を取り入れ、マンネリ化することなく講座を企画していきます。施設管理業務はいろいろな設備に経年劣化がみられ、また、利用者の高齢化のための通路のバリアフリー化にも気を配らなければなりません。年々修繕箇所と経費が建物の築年数に比例して増えているため、日々の点検に一層励んでいきます。</p>	<p>耐震改修工事を実施した後に混乱なく業務を再開できたことは、これまでの経験の蓄積による運営スキルの成熟が感じられます。教室の開催については、基礎的なものから発展的なものまで幅広く開催されており、その内容にも工夫が見られます。発展的な教室では利用者が少ない場合もありますが、市内唯一の公的陶芸施設として、幅広いニーズに応える積極的な姿勢を評価します。広報については、既にチラシ等の紙媒体やホームページ等を活用した取組がなされていましたが、新たにホームページのスマートフォン対応やフェイスブックページを開設するなど取組の幅が広がっています。耐震改修前と比較して利用者が減少していますが、これらの広報活動が結実し、徐々に利用者が回復することを期待しています。施設の管理・運営については、日々の施設点検による設備の保全のほかに、業務点検を通じて適正な情報管理や防災の取組がなされています。今後も取組を継続し、施設の信頼を高めるとともに、利用者が安心して利用できる、満足度の高い施設運営を目指してください。</p>